

## 令和2年度 第1回駒ヶ根市地域公共交通協議会 会議録

令和2年7月9日（木）午後1時30分～

駒ヶ根市役所 本庁舎 2階 大会議室

【出席委員】18名（欠席：大島則雄委員・岩崎康男委員・芦澤千恵子委員）

### 1 開会（企画振興課長）

### 2 委嘱状交付

新任委員7名（※代表して、池上千博（北割1区区長）委員に交付）

### 3 会長あいさつ

- 新型コロナウイルスの感染拡大に伴い移動自粛が続く中、交通事業者にとっては厳しい状況が続いている。こまタクについても、2月以降利用者は昨年度に比べ大きく減少している。
- 地方の街にとって、足の確保が益々大きな課題となっている。本年度、網形成計画最後の年となり、5ヶ年の状況を十分に検証した上で、次期計画への反映はもちろん、時代を見据えた駒ヶ根市地域公共交通サービスを検討していかなければならない。とりわけ、IT等の新技術の活用も大きなカギと考えている。
- 令和元年度事業、決算報告、次期計画策定のスケジュール等を説明し、ご協議いただく。委員の皆様には移動自粛などご自身が経験されたこと、感じたことなども踏まえ、地域公共交通に関する意見等を頂戴したい。

### 4 協議事項

#### （1）令和元年度事業

- |                           |     |     |
|---------------------------|-----|-----|
| ①事業報告                     | 資料1 |     |
| ②決算報告・会計監査報告（※監査報告：野村満監事） | 資料2 | 資料3 |
| ③こまタク運行実績                 | 資料4 |     |
| ④運転免許証自主返納支援事業実績          | 資料5 |     |
| ⑤割引タクシー券・福祉タクシー券実績        | 資料6 | 資料7 |

（質疑等なし） ⇒ 全員挙手（承認）

(2) 駒ヶ根市地域公共交通網形成計画 設定目標に対する評価 資料8

(質疑等なし) ⇒ 全員挙手 (承認)

(3) 駒ヶ根市地域公共交通網形成計画策定及び事業支援委託契約 (案) 資料9

(4) 駒ヶ根市地域公共交通網形成計画の策定について 資料10

<野村満委員>

- 定期バス (こまちゃんバス) がなくなり、こまタクが主に使われているが、若者の利用が少ない状況である。事前に予約が必要なことや降車場所が決まっているため、利便性が良いとは言えない。
- 将来的に定期便を運行する可能性はあるのか。また、定期便を運行するとした場合、バス停の管理をどのようにしていくのか。

<事務局>

- こまタクの制度設計をする際、こまちゃんバスの利用者の中心であった高齢者の「買い物・通院」に重点を置いた制度設計としたこともあり、若者の利用は少ない状況である。
- 今後定期バスの運行をどうするか、バス停等も含めて、今年度策定する網形成計画の中で検討していく。

<会長>

- 今後、計画を策定していく中のご意見をいただきたい。

⇒ 全員挙手 (承認)

(5) 駒ヶ根市生活交通確保維持改善計画 (案) 資料11

<下平正躬委員>

- 「フィーダー系統」について説明して欲しい。

<事務局>

- 主要幹線に対する枝 (支線) となる公共交通のことを「フィーダー系統」という。
- 駒ヶ根市の場合、JRを主要幹線とし、それに対し枝となる公共交通が「こまタク」ということになる。

⇒ 全員挙手 (承認)

## 5 報告事項

- (1) バス部会・タクシー部会について
- (2) いいちゃんバスの利用状況について

(質疑等なし)

## 6 その他

<中沢区 野村委員>

- こまタク、割引・福祉タクシーについて説明して欲しい。

<事務局>

- こまタク、福祉・割引タクシーについて説明

<北原和雄委員>

- 運転免許証の自主返納者が多くなっている中で、1万円分の無料券をもらっても利用率は14%に留まっている。高齢者が家に閉じこもってしまう（社会参加をしなくなる）ことが懸念される。
- 高齢者が社会参加できる（外に出て行ける）ような対策を考えていただきたい。

<事務局>

- 高齢者による交通事故がニュースで報道され、自主返納する方が増え、警察署から自主返納支援事業を案内されてそのまま申請に来るが、実際は家族の送迎ができたり、タクシー自体の利用が難しい方もいるため、登録者に対する利用率は低くなっている。
- 高齢者の社会参加については、取り組んでいかなければならない課題である。公共交通だけで補えることではないが、高齢者が利用しやすい公共交通を考えていかなければならない。それらのことも含めて、今年度策定する計画の中で検討していく。

<会長>

- 様々な事業を組み合わせる進めていかなければいけないと考えている。

<長野県企画振興部>

- 新型コロナ対策支援関係で、県議会6月定例会で事業者支援の予算措置が決定した。支援内容は、バス1台につき10万円、タクシー1台につき2万円の支援となる。今後、事業者に通知する。

<上伊那地域振興局>

- 地域振興推進費を活用し、昨年度に引き続き、高速バス「みすずハイウェイバス」の実証実験に取り組む。

7 閉 会（企画振興課長）

【終了時間：14時20分】